

## 校外教育 研究紀要

### 〈研究主題〉

地域とのつながり・豊かな体験活動を生かした児童の心と体の育成



### 蓮田市立黒浜北小学校



〒349-0142

埼玉県蓮田市南新宿800番地

TEL 048-768-4180

FAX 048-768-4141

Email [e-kurokita.hasuda@nifty.com](mailto:e-kurokita.hasuda@nifty.com)

URL <http://kurokitasyo.kids.coocan.jp/>



## 1 研究の概要

### (1) 研究テーマ

地域とのつながり・豊かな体験活動を生かした児童の心と体の育成

### (2) 選定理由

本校は登下校の児童見守り、クラブ活動、授業支援等のボランティアをはじめ、多くの地域人材に支えられて教育活動を展開している。令和4年度には、音楽やスポーツ、食育等にも幅を広げ、学校外からも講師を招聘、教育を一層充実させた。令和5年度にはこれらの取組をさらに充実・発展させ、児童の健やかな成長のため地域とともにある学校づくりを目指して本テーマを設定した。

### (3) 研究のねらい

地域人材、外部講師による専門性の高い学習や多様な体験の機会を全学年に設定し、児童一人一人の心身の健やかな発達を図る。

### (4) 研究計画

4月	来校者や地域の方への情報発信コーナー（来校者受付）の整備
4～2月	地域ボランティアによるクラブ活動（4～6年太鼓クラブ、ボードゲームクラブ）
5～3月	蓮田お話の会ボランティアによる読み聞かせ（1～3年）
5月	理科ボランティアによるヤゴ教室（3年） 社会歴史講座（6年）
6月	学校評議員会（10月、2月にも開催）
6月～	食育指導（年間を通して1学年ずつ全学年で実施予定）
7月	がん教育（6年） 地域防犯推進会議の開催（地域との情報共有）
10月	野口英世出前授業（6年）
11月～	生と性の講話（2・3学期中に1学年ずつ全学年で実施予定）
11～12月	落ち葉掃き運動（縦割り班ごとに全学年実施）
12月	クリーン作戦（1～6年）
2月	ありがとう集会（1～6年）
3月	研究の成果のまとめ 研究紀要の作成

## 2 実際の実践（主なもの）

### （1）地域ボランティアによるクラブ活動

太鼓クラブ、囲碁将棋クラブの2つのクラブで、地域ボランティアの協力を得ながら年間12回の活動を行った。両クラブ共に、本校の教員だけでは実現できない専門的な指導を受けながら、児童が生き生きと活動することができた。太鼓クラブで使用する和太鼓は、地域の自治会からの寄付によるものであり、設備面でも多大な協力をいただいている。



### （2）理科ボランティアによるヤゴ教室

第3学年を対象に毎年行われているヤゴ教室を、理科ボランティアの協力によって今年も実施することができた。本校のプールで採取した生きたヤゴを見たり触ったりしながら、体のつくりや種類の見分け方などについて学んだ。児童のヤゴへの興味関心が高まり、「ヤゴのことを詳しく知ることができて楽しかった」「最初は触れなかったけど、話を聞いたりと観察したりしていたらかわいく感じて触れるようになった」などの感想が挙がった。ヤゴを持ち帰って家でトンボまで育てた児童もおり、最後まで世話をすることの大切さや生命への愛着を学ぶことができた。



### （3）食育指導

蓮田市の健康増進課より栄養士の方を講師として招聘し、全ての学年で発達段階に応じた食育指導（1年：はしの使い方 2年：3色食品群 3年：カルシウム 4年：海藻の栄養 5年：魚の栄養 6年：野菜の栄養）を実施した。学習を通して食への知識を深めることができた。また、苦手な食べ物にも体に必要な栄養があることを知り、少しずつでも食べてみようという意欲をもった児童も多く見られた。6年生は夏季休業中に、蓮田市から独自に発行されている「はすベジレシピ」を見ながら、家庭で野菜を使った簡単な料理に挑戦する取組も行った。



### （4）がん教育

第6学年を対象に、講師に埼玉医科大学総合医療センターの儀賀理暁様をお招きして実施した。がんとは何か、がんの要因、種類や経過などについて、がん患者の体験談も交えながらお話をいただいた。講義終盤、希望を捨てずにがん闘う患者の映像を見て多くの児童が涙を流していた。児童の感想には「がんにかかったらほとんどの人が死んでしまうと思っていたけど、助かる人もたくさんいると知ってうれしかった」「がんの予防のために、大人になったら無理なダイエットや食生活に気を付けたい」等の記述が見られた。

### (5) 野口英世出前授業

福島県会津若松市への修学旅行に向けた事前学習として、第6学年を対象に実施した。野口英世記念館の職員の方を講師に、野口英世の生い立ちや業績等について、講義や映像資料で学んだ。予め得た知識をもって臨むことで修学旅行への意欲が高まり、現地での学習がより深いものとなった。

### (6) 生と性の講話

第2・4・6学年を対象に、蓮田市助産師会より講師を招聘して実施した。(2年：おへその働き 4年：男女の心と体の成長 6年：自他の生命)自分たちの誕生は奇跡であること、新たな生命の誕生に向けて自分たちの心と体も変化をしていくことなどを学んだ。児童からは「どんなにつらいことがあっても楽しく生きようと思う」「私もたくさんの人たちを支えられるようになりたい」という感想が挙がった。



### (7) ありがとう集会

2月下旬、地域のボランティアの方々を招待し、手紙と花を贈呈して感謝の思いを伝える集会を開催した。毎年実施しているものではあるが、コロナ禍以降全学年の児童が体育館に集まったの対面形式での開催は3年ぶりとなった。集会に向けて児童が書いた手紙には、「いつも私たちの安全を守ってくださりありがとうございます。(1年生から下校ボランティアの方へ)」「いろいろなお話を聞かせてもらい、本が好きになりました。(2年生からお話の会ボランティアの方へ)」「初めはうまくできなかった太鼓が上手になってうれしいです。(4年生から太鼓クラブボランティアの方へ)」等、一人一人の心からの感謝の思いが綴られていた。



## 3 成果と課題

### (1) 研究の成果

地域の人材とのつながりを生かした多様な体験活動により、児童の興味関心が広がった。好きなこと、得意なことが異なる児童が集まる学校という環境において、専門性をもつ講師の方から学ぶ豊かな体験は、個に応じた児童一人一人の学びの実現や、非認知能力の醸成に多大な恩恵をもたらすことが分かった。また、多くの地域人材との関わりの中で、自分たちの学校生活は多くの人々に支えられていることに気付き、感謝の思いをもって生活しようとする児童が多く見られたことも大きな成果である。

### (2) 今後の課題

体験学習で得た気づきや興味関心をさらに深めていくことで、児童一人一人のキャリア形成が一層充実していくと捉えている。そのためにも、今年度の研究を生かし、日々の教科等の学習の中の位置づけを明確にした教育計画の再構築が必要である。事前・事後の学習とのつながりも大切にしながら、今後も実践を重ねていきたい。